

巨匠。パゾリーニが。ホルノの限界に挑み、  
花卉のしたたりを絢爛と描く  
愛と性の讃歌！

*Bawdy  
Tales*

＜デカメロン＞  
＜カンタベリー物語＞の  
＜アラビアンナイト＞

ピエール・パオロ・パゾリーニ作

カラー作品

United Artists  
ユナイテッド アーティストズ  
ユナイテッド映画

# エロスの詩<sup>うた</sup>

製作アルベルト・グリマルディ/監督セルジオ・チッティ/音楽フランチェスコ・デ・マーシ■ニネット・ダボリ/フランコ・チッティ/ニコレッタ・マキアベリ





# エロスの詩



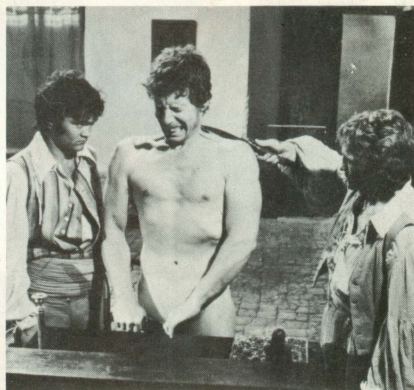
## ■スタッフ

製作……アルベルト・グリマルディ  
監督……セルジオ・チッティ  
脚本……ピエル・パオロ・パゾリーニ  
撮影……トニーノ・デリ・コリ  
音楽……フランチェスコ・デ・マージ  
美術……ダンテ・フェレッティ



■凄絶／自らの一物を切りとる公爵  
妖艶な公爵夫人は、毎夜女中部屋に若い男を引つ張りこんで、その性欲を満たしていたが、そのうちにそれだけでは物足りなくなつて、納屋に六人の若者を誘い、次から次へと……そして翌朝は教会で懺悔。これを盗み聞きした夫の公爵は、浮気の現場に乗りこみ、妻の眼前で自らのシンボルを切りとり、「お前にはコレしか必要ないだろう！」と、血みどろのペニスを投げつける……

■無残／絶倫神父のペニス断罪  
新しく着任した神父は好色絶倫。ピチピチの新妻にさつそく目をつけ、彼女の夫の留守を狙つてその家を訪問。言葉たくみにベッドに誘い、特別念入りに祝福を与えた。この噂を聞いた新妻の亭主は、翌日も仕事に出掛けるふりをして、荒っぽい友人と帰宅。噂通り、そこには最愛の妻と憎つてき神父の露わな姿が……怒った亭主は全裸の妻を刺し殺し、裸で震える神父にナイフを渡し、自分で自分の男性自身を切らせる……



## ■キャスト

ベルナルディーノ……ニネット・ダボリ  
マンモーネ……フランコ・チッティ  
カテリーナ……ニコレッタ・マキアベリ  
大司教……ジャンニ・リッツォ



■迫力／間男のモノを焼いてホオばる若妻  
放牧場で、若い羊飼いは相棒のムチムチ妻を見て一計をめぐらせ、牝羊の方が人間の女よりSEXの具合がいいとけしかけた。乗せられた年寄りの羊飼いが、ソノ味を試している間に、首尾よくムッチリ妻を頂戴する。味を始めて次の日も……だがその何回目かの時、熟れた若妻を後から抱きすくめると、何とそれは女装した年寄りの羊飼いだつた。年寄りの羊飼いは若い羊飼いのペニスを切りとり、無残な死体を木に逆さ吊りにして、切ったペニスを串刺しにして火にくべ、そしらぬ顔をして若妻に食べさせた……

■「デカメロン」、「カンタベリー物語」、「アラビアン・ナイト」の総集版！  
画面には、ニネット・ダボリ、フランコ・チッティ他、パゾリーニ・ファミリーのメンバーが総出演しているが、彼らは三部作「デカメロン」、「カンタベリー物語」、「アラビアンナイト」で見い出された面々ばかり。それがこの作品で一挙に集結した事からも、この「エロスの詩」はパゾリーニ三部作の総集版ともいえる。



■さすがのパゾリーニも描けなかつた衝撃作！  
こんな話を、二人の悪党が、野グソをしながら語りつづけ、その間に殺人を犯して投獄され、ギロチンで首を落とされるまで休みなく話しつつける。  
「例の艶笑三部作を撮り始めた頃からアツタめていたネタだったが、今では一連の作品で有名になり過ぎてしまったので、この題材はさすがに自ら映画化できなかつた。だから、弟子のセルジオ・チッティに撮らせた」と、パゾリーニ自身が語っているが、作品のタッチからみて、どうも弟子の名を使いながら、自分で撮つたのではないかと噂がシキリ。

●特別鑑賞券800円発売中(一般1000円/学生900円の処)